

第3回福光地域学校統合検討委員会（会議記録）

【日時】令和7年3月26日（水）開会：午後7時00分 閉会：午後8時49分

【場所】南砺市役所 別館3階大ホール

【出席委員】 齋藤 史朗 委員長 得能 金市 副委員長 平野 信一 委員
高瀬 須美夫 委員 中田 健一 委員 高倉 寛明 委員
富田 新之介 委員 高田 智洋 委員 林 裕一 委員
嶋 潤之介 委員 石黒 梢 委員 森田 泰将 委員
海木 有紀 委員 日光 司 委員 戸成 博宣 委員
船藤 幸輔 委員 舘 英二 委員 坂本 博昭 委員
久恵 文子 委員 水口 賢 委員 田嶋 原子 委員

【欠席委員】 高田 公美 委員

【事務局員】 教育長 松本 謙一 教育部長 氏家 智伸
教育総務課長 上野 容男
教育総務課副参事 山本 佳和 教育総務課副参事 金谷 諭
教育総務課主幹 山田 浩司

【会議要点】

1 開会

2 委員長挨拶 齋藤委員長

3 報告事項

（1）福光地域の学校統合検討案説明会の開催報告

4 協議事項

（1）各団体の検討状況について

- ・各団体の3パターンの学校統合案に対する意見を、委員に報告していただいた。

（2）意見交換

- ・検討する順番を、「統合時期の決定」→「学校数の決定」→「使用する校舎の決定」とすることを確認した。
- ・学校数の決定に関しては、3つの学校統合パターン案のうち、パターン1「小学校1校・中学校1校」とパターン2「小学校2校・中学校1校」に絞って検討を進めることを確認した（義務教育学校は設置しない。）。
- ・学校統合案をパターン2「小学校2校・中学校1校」とした場合、子どもたちに安定した教育環境を提供する観点から、南砺市全体での学校統合の検討が始まるまでの間は、2つの小学校の統合は行わないことを確認した。

（3）今後の進め方について

- ・次回の第4回検討委員会で、事務局から統合時期の教育委員会案を提示する。

- ・学校統合パターンをパターン１とパターン２に絞った上で、再度各団体で協議していただく。検討資料として、パターン１とパターン２の違いについてまとめた資料を事務局で作成し、委員に送付する。

５ 次回委員会の日程 令和７年６月中を予定

６ 副委員長挨拶 得能副委員長

【会議記録詳細】

１ 開会

２ 委員長挨拶

(委員長)

本日はお集まりいただきありがとうございます。

前回の１２月２日の検討委員会では、統合案として３つのパターンが出ました。それを受けて１月２３日から２５日までの間に、福光東部、福光中部、福光南部の小中学校区で説明会がありました。これらの資料は、皆様に事前にお配りしております。

本日は、これまでの経緯も含めながら、それぞれの団体での検討状況について報告していただこうと思います。それから、各校区で出てきた質問と意見もまとめてありますので、それらも参考にしながら進めていければと思います。その後、意見交換という流れで進めていきたいと思います。よろしくお願いします。

３ 報告事項

(１) 福光地域の学校統合検討案説明会の開催報告について

(事務局)

- 資料１に沿って説明 -

４ 協議事項

(１) 各団体の検討状況について

(委員Ｂ)

私は東太美地区在住なものですから、東太美地区の意見として聞いていただければと思います。

結論としては、ほとんどの方がパターン１を希望しています。もともと複式学級になると統合という話があったので、そのあたりは、親御さんも含めてみんな分かっているので、パターン１を希望しています。

それで、統合時期についてですが、全く決まっていないように感じます。本来は、統合時期を先に決めて、そこから考えていけば良いのではないかと。「学校の統合パターンを決めてから統合時期を決める」という順序は、逆ではないでしょうか。本来なら、時期を先に決めて、それに向かって進めるのが妥当ではないでしょうか。一日も早く統合してほしいということであります。

また、遠距離通学になるので、スクールバス等の交通手段の充実を図ってほしいと思います。

(委員D)

福光南部小学校で説明会があり、そこで小学生の保護者対象のアンケートを実施しました。パターン1が78%、パターン2が15.6%、パターン3が0%、例外としてパターン4が6.3%ありました。パターン4の意見は、「統合はなかったことにする」などでした。結果、パターン1が一番多かったです。

集まった意見としましては、「福光南部小学校は中学校に上がると、福光中学校と吉江中学校に分かれるため、中学校が1校になることが望ましい」、「部活動も成り立たないため、早急に中学校は1校がよい」、「統合前、統合後も他校との連携や交流は必要で、福光地域に限らず南砺市全体として交流できればよい」、「ふるさと学習の機会を多くとってほしい」、「統合されれば、南部校区の小学生はバス通学が前提となるため、交通機関を充実させて保護者の送迎の負担を少なくしてほしい」というものがありました。

ほかには、少し不満気味な意見になるのですが、「今回の統合説明会はあまりにも急で、寝耳に水。南部小学校は統合が前提というならば、市は時間をかけて保護者に経緯を説明しないと前向きに受け止められない。今一度、保護者や子どもたちを含む地域住民に丁寧な説明と深い話し合いを求む」、「統合されると、これまでの南部校区のよさが失われ、移住者が減るのではという心配の声も上がっており、ますます南砺市の人口が減るのではないか」、「統合は中学校のみで、小学校は現在の3校を残したままにしてほしい」というものがありました。

(委員F)

福光中学校としては、全体アンケートなどは取っていません。執行部会などでは話しましたが、PTA役員など事情が分かっていない方には、なかなか意見を出してもらえませんでした。その場に10人もいないなかで多数決を取りましたが、結局、まとまりませんでした。

そこで、PTAとしての意見集約とは違いますが、広瀬地区と南蟹谷地区の意見交換会を2月27日に行いました。そのときは16名集まりましたが、パターン1が4.5票、パターン2が5.5票、パターン3が5票、「わからない」が1票となりました。

色々な意見があることを実感しましたが、そのなかで、特に皆さんが心配しているのがパターン1とパターン2の場合の通学手段についてでした。距離が遠くなるので、バス通学などをどこまで充実させてもらえるのかということです。また、どうしても、城端線沿線や国道304号線など交通量の多いところを渡るので、交通の整備も一緒に進めていかないとはいけません。自転車にしても、道幅が狭いところは危ないです。先日も痛ましい事故があったので、子どもの安全を優先すべきと感じています。

ごく少数ですが、今、統合の話が進んでいますが、「統合の検討はもっと先でもいいのでは」という意見もありました。現段階で統合したとしても、何年後かに同じ話が浮上したら、子どもたちが振り回されてかわいそうだということです。

保護者のみなさんの感覚ですが、中学生の保護者は、やはり部活動の心配をされます。小さいお子さんの保護者の場合は、行動範囲が狭いので、パターン3や通学に支障のない現状維持がよいという意見がありました。地域によっても、子どもの年代によっても意見が違います。あと数年で中学校を卒業するぐらいの年代だと、あまり関係ないという思いもあるようです。

結論として、まとまっていないのが現状です。

(委員H)

前回の検討委員会後に、福光どんぐり保育園の役員会をすぐに関き、資料もみなさんにお配りして話し合いました。パターン1、パターン2、パターン3のどれがいいかという取りまとめはしていません。説明や理解がまだ十分に浸透していないため、この段階で、役員会でパターンを決めるということはしていません。

色々な意見が出たのですが、「現役の中学生に、ぜひ意見を聞いてみてほしい」という意見がありました。親が意見を吸い上げるのは難しいので、しっかりと説明した上で、アンケートを取り、大人目線ではない子どもの意見を聞いてみるとよいと思います。何が子どもにとって負担なのかなど、思いもつかないような意見が出てくるともあると思うので、ぜひ、中学生だけでもいいので、アンケートを取っていただけたら良いのではというものです。

それと、南砺市は人口減少が問題となっています。「外から南砺市に来てもらえるような環境づくりとして、もっと思い切って魅力的な小中学校の整備や環境づくりをしてほしい」という意見もありました。

そのほかに、「思い切って南砺市で中学校を一つにしてしまえば、移動の問題はあるが、部活を分けなくてもよくなる」、「どのパターンになるにせよ、早く決定して細かいことの整備に時間をかけて、よりよいものにしてほしい」、「義務教育学校のメリット・デメリットでいじめの話があるが、いじめの話はなかなか大人に言えず表面に出てこない。メリット・デメリットの話ではなく、いじめに関しては慎重にケアをしてほしい」という意見もありました。

(委員J)

かがやき保育園父母会・役員会で、個別のアンケートや話し合いはまだ行っていません。福光東部小学校での説明会に行きたかったのですが、夜7時からの開催では、保育園児がいる家庭はなかなか難しいという意見を聞きました。私も同意見で、話は聞きたいくても、説明会に出られない家庭も多いと思います。日中や土日など、臨機応変に回数や時間のパターンを増やし、説明会を丁寧に行っていく必要があると思います。

学校の統合について、周りの人たちとの話題に上がることがほとんどありません。子育てに忙しいということや、情報が届いていない人が多いからではないかと思っています。

何人かと話したなかでは、パターン1がよいという意見が一番多いです。

(委員L)

喜志麻保育園では、皆さん子育てで忙しいこともあり、大人数で集まっての話しはしていません。

そのなかでも出た意見としては、「義務教育学校がよい」、「パターン1もパターン2も通学距離の問題が出てくる。通学距離が遠くなるということは、スクールバスを出したとしても子どもにも親にも負担が増える。今までは近くの学校に行けていたが、雪が降った場合の送迎が増える」というものでした。

ただ、「兄弟がいる場合、今まで小学校と中学校で行事が重なったときは、親が別々に見にいったが、義務教育学校で中学校区が残るとなれば、学校行事が1箇所ですべて完結するので、その面では良い」という意見もありました。

(委員N)

商工会青年部では、各小学校で開催された説明会への参加を青年部員に呼びかけ、参加できない部員には過去の検討委員会の資料等を配布し、意見を求めました。結果としてはパターン1、パターン2、パターン3についての意見は出ていないのが現状です。

商工会青年部は、地域教育、地域の活性化、都市計画、まちづくりにコミットしていかなければならない団体だと思っています。今後もその面が廃れないように、14歳の挑戦、職

業体験のチャレンジマイスター事業、駅の利用促進事業など、そのような面から学校統合に協力していけたらと思っています。

（委員 P）

文化協会でも資料をもとに話し合いました。メンバーは祖父母の方々よりも少し上の世代です。

F 委員がおっしゃったように、数年後に再度統合について話し合うと、子どもたちに戸惑いが生じると思います。事務局が考えている、今の子どもにとってより良い教育環境にすることを考えると、再度統合について話し合うことは望ましくないという意見がありました。

また、南部小学校区は現在 4 つの地域からなっていますが、進学する中学校は 2 つに分かれてしまいます。先人が決めたこととはいえ、悲しく寂しいことです。統合されるならば、初めから分かれることなく、常に同級生という環境を作ってもらいたいです。

文化協会には、高齢化で存続が難しい団体もあるので、次世代の子どもたちの育成を頑張りたいと思っている。学校が一つになれば、何度も行って子どもたちに文化の良さを伝えることができます。

以上の理由で、パターン 1 を推すということで、話し合いはまとまりました。

（委員 S）

中学校の現状から申し上げますと、将来的に中学校は 1 校が望ましいと思います。

その理由として、一点目は、部活動の地域移行が来年度から本格的に実施されることです。完全実施は令和 10 年で、その頃には、吉江中学校にソフトテニス部がなくなったりと、ほとんどの部活動がないという状況です。その期間までに、特認校制度等を利用して生徒が移動することが予想されます。そういった意味でも、1 校にすることが望ましいと考えます。

もう一点ですが、中学校は教科担任制ですが、全ての教科の先生が学校にいられるのかを危惧しています。現状でも、技術家庭科の先生が吉江中学校にはいません。家庭科は、ほかの教科の先生が免許外申請をして担当しています。このような状態がますます増えてくることが、学校現場としては非常に心配です。数字から追っていくと、このような状態がどの学校でも発生しています。

（委員長）

学校の教員の定数は、子どもの数ではなく、学級数で決まります。単級になると、全教科の教員が揃うのは不可能です。現在、全教科揃っているのは、市内では福野中学校だけです。足りないと、補助の非常勤講師などが派遣されればいいのですが、そうでなければ、例えば、国語の教員が免許外申請をして体育を教えることもあります。そのような問題が起こっていることが現実ですので、やはり、考えていかなければならないと思います。

（委員 T）

保護者会、父母会とお話をしています。出た意見としては、先ほどから、ほかの保育園の保護者会、父母会の方が話されたとおりです。

（事務局）

本日欠席の R 委員から、意見をまとめた資料をいただいているので読み上げます。福光中部小学校教職員の意見ということで、職員会議で議論されたということです。

パターン 1 の利点は、各学年複数クラスとなった方が若手職員の負担が少ないこと。パターン 2 の利点は、福光中部小学校としてはこれまでと大きく変わることがないので児童、保護者に安心感があるのではないかとということが、それぞれ挙げられます。

一方、パターン1の課題は、小学校が一つとなれば通学距離が長くなる子どもが出てくること。パターン2の課題は、単級となって6年間同じ学級になった場合、人間関係の固定化が懸念されることが、それぞれ挙げられます。

どれか一つのパターンに集約されることはありませんでしたが、パターン3を支持する意見はありませんでした。どのパターンになっても「どの学校を使うか」という段階で少し時間がかかることを心配していますが、統合が遅れることは避けたいという点は、共通した意見です。

(委員Q)

主任児童委員は各地区にいますが、地域の皆さんの意見を大事に進めていかれたらいいということで、特に話し合いはしていません。

(委員O)

新年会があり、そこで討議をしました。結果は、当然パターン1でよいのではという話になり、福光地域体育協会としては1を勧めたいと思っています。

資料17ページにあるとおり、福光中学校と吉江中学校の部活がどちらも残るのであれば、我々としては、生徒さんに色々なことをやってほしいので、1校になって人数が増えればプラスアルファの部活もできと思っています。今までのソフトテニスと陸上だけでなく、もう少し幅広い部活動ができ、子どもたちのスポーツ意識が高まるのではと思います。

(委員M)

地域づくり協議会で会長会を開き、意見交換をしました。その場ではパターン1がよいのではという意見が多かったです。この意見交換のなかで、二つのことが特に話題になりました。

一つは、現在、特認校制度を活用して行きたい学校があったとしても、親の送り迎えが大変で躊躇している例が非常に多いことです。仮に統合した場合、中学生にとっては通学がネックとならないように、デマンド運行などを早く進めていただければいいなと意見がありました。小学校も通学距離が長くなるので、スクールバスを増やすなどの対応が必要になってくるのではないかという話です。

もう一つは、統合の時期を決めて進めてもらったほうがよいということです。例えば、令和X年4月から実施するという目安、用途を示してもらい、それに向けて積み上げていくことが大事なのではないでしょうか。現在も色々と意見交換をしていますが、保護者、児童、生徒にとっては、「将来統合するのか？でも、自分には関係ない時期だな」など、統合が5年後などの遠い時期になると、このように思ってしまう。統合の時期をある程度明確にして進めてもらったほうがよいのではないのでしょうか。

(委員K)

アンケート調査でみなさんの意見を集めました。私は中部校区の説明会に参加しましたが、思ったより人が来ていませんでした。気になるけど行けなかったり、統合が確定してしまうのではないかなど、興味がないわけではないが、説明会には一歩足が出なかったというお母さん方が多かったです。

私の幼稚園は、福光東部、福光中部、福光南部と城端地区の子どもが混ざり、一緒に過ごしています。現段階でも、東部校区にいても中部小学校に行くとか、南部小学校は統合が決まるのではということで、途中で学校を変えさせるのは嫌だからという理由で、すでに特認校制度で東部小学校に行っているという話も聞きます。南部校区の方は、「小学校に入るときに友だちがいらないのではと心配」、「南部小学校に入る子がどんどん減っていく危機感がある」

とのことです。また、「時期を早く決めてもらえれば、自分の家庭のタイミングやスケジュールに合わせられる」、「受験のタイミングで中学校が変わるのはよいのかと不安」という意見もありました。

パターン1に対する意見として、「1年生の時点で南北に長い福光地域をどうやって通学するのか。近くても心配なのに、遠くなるとさらに心配。通学方法について安全面も含めた説明があれば、安心して通わせられる」、「クラスも、2〜3クラスあればクラス替えがあるので良いという思いはある」というものがありました。

パターン2に対する意見として、「通学距離が短いところがいい」、「福光東部は1クラスしかなく、すでにクラス替えがないのかという感想を持った」、「先送りにしかないのでは。いずれ一緒になるなら、一緒にしてしまえばよい」というものがありました。

パターン3に対する意見としては、「まだ義務教育学校に対するイメージが湧かない」、「中学校の怖い先生が小学校低学年を担当して大丈夫なのか」、「思春期の中学生に、小学生が悪い影響を受けないか心配」、「一つにまとめるという話なのに、義務教育学校を2校設置するというのが納得できない」というものがありました。

結果としては、パターン1という意見が多かったです。

そのほかに、「いずれ、南砺市全体で中学校が他地域と統合する可能性があるなら、小学校と中学校は分けておいた方がいい。そのときに福光地域だけでやっていくのであれば、義務教育学校を1校設置することを考えたらいいいのでは」、「学校の統合は致し方ないが、各地域に放課後の学童や災害時の避難所などに対し、もう少し心配してほしい」という意見もありました。

(委員I)

26世帯にアンケートを取り、24世帯から回答がありました。パターン1が16世帯、パターン2が3世帯、パターン3が5世帯という結果になりました。「どれにしても私たちの声は届かない。結果は変わらない」という回答も、3世帯ありました。

(委員G)

吉江中学校ではアンケートは実施していません。統合校の開校が、どんなに早くても、統合決定後から2年かかるということは、これから入学する1年生が当事者ではないということもあり、なかなか意見が出にくかったということだと思います。執行部会でも意見を求めてみましたが、意見は出ませんでした。

先ほどS委員がおっしゃったように、中学校の現状でいうと、今年の4月から部活動の地域拠点校化が進むので、早期に統合して部活動の選択肢を増やしていただくのがいいのかなと思います。そのなかで、影響の出そうな交通手段などのサポートを充実していただくのが大事だと思います。

(委員E)

福光東部小学校育友会では、アンケートを取って141件の回答をいただきました。パターン1が37%、パターン2が35%、パターン3が24%という結果で、明確な差は見られませんでした。

各パターンを選んだ理由を見てみると、パターン1を選んだ方は、「子どもがどんどん減っていくのは数字からも明白なので、もう小学校と中学校を1校ずつにまとめてしまったほうがいいのではないか」という意見が大多数でした。

パターン2を選んだ方は「通学距離が延びるのが不安」、「今ある校舎の活用という意味では一番現実的」という意見がありました。

パターン3は「通学距離を考えるとこれがよい」、「学校や地域の伝統を守ることを考えるとこの選択肢もありうる」という意見がありました。

ただ、義務教育学校に対しては、皆さん実感が湧かず、不安に思うことも多いようです。パターン1とパターン2を選んだ方のなかには、「義務教育学校では低学年と中学生が身近に交流することで性的な問題が起きないか不安」、「高校に進学したときに人間関係をきちんと築けるのが不安」という意見もありました。

このアンケートを踏まえ、育友会総務委員会でも話しました。そのなかで「低学年、中学年は難しいかもしれないが、高学年ぐらいからアンケートをとって、南砺市になって生まれた子どもたちの意見を集約することも意味があるのでは」という意見がありました。

(委員C)

前回の統合検討委員会後、12月に地元の石黒交流センターでの住民の方との意見交換会や、1月の市教委からの統合説明会後に中部小PTA役員会で役員の意見を聞く場、市議の方が開催された意見交換会などに参加しました。また、本音を聞きたいという思いもあり、一対一の形でも、保護者の意見を多く聞きました。

みなさんの意見は、ほぼ均等に3つに分かれました。3つのパターン以外では、「近年の南砺市に生まれた子どもの推移を見た上で、中学校は地域ごとに考えるのではなく南砺市としてもっと大きな規模で統合が必要ではないか」という意見もいくつかありました。

いずれにせよ、意見が割れている以上は、「中部小学校の意見はこれです」と報告することはできないと思っていましたが、取りまとめているなかで保護者の意見にいくつかの傾向がありました。それは、「小学校の統合については様々な意見がある一方で、中学校の統合を反対する意見は極めて少ないこと」、「通学バスなど送迎に関して意見を言われる方が多いこと」です。

3つのパターンで意見を聞くなかで、保護者からはこの2つの傾向と懸念が聞かれ、PTA役員会で再度協議した結果、「今後大きな統合をしなければいけない状況が出てくるのではないかな。それならば、今回は極力小さい統合でいいのではないかな」という意見が出ましたので、福光中部小学校PTAとしてはパターン2を推します。

(委員A)

いつついし自治会、中部小学校後援会会長としてこの会に参加しています。自治会としての意見は、傾向としてはパターン1でいいのではないかなという結論を出しています。中部小学校後援会の会長として、先ほどC委員が報告されたことも、大事なことだと思います。

(2) 意見交換

(委員長)

ひととおりの話をお聞きして、傾向は見えてきた気がします。ほかにこの場で話しておきたいことや質問があれば、お願いします。団体としての意見を先ほどお聞きしましたので、委員の立場として他団体への質問や意見交換ができればと思います。

(委員F)

個人的な意見ですが、交通のことが問題だということであれば、学校と線路からの距離を考えると、吉江中学校のほうが線路に近いです。学校から近いところに駅などがあれば、地下道を整備する箇所も少なくなると思います。

城端地域でも検討委員会が発足しましたが、今後、城端と井波も含めた話になった場合に、将来のことを思えば、地理的にどこが南砺市の中心になるのかを考えるのも大事だと思います。

（委員B）

教育長が以前、多数決ではないとおっしゃっていましたが、色々な意見が出ていて、これをまとめるのは大変な気がします。誰かがリーダーシップをとって説得する形にしないと検討会を何回やっても同じことだと思いますが、いかがでしょうか。

（委員長）

どのようにして意見を集約するかということになりますが、次回の6月の検討委員会のことも触れることにもなりますが、どのような形で進めていくかということにも関係してくると思います。周知が足りないという話もありますし、それも踏まえながら考えていかなければならないと思います。

ただ、いくつかの団体からの報告にもあったように、ある程度時間を明確に決めないといけないという意見も出ています。スケジュール面も含め、ほかにご意見はありますか。

（副委員長）

全体的に見ますと、保護者にはそんなに切迫感がありません。まだ遠い将来のことだと思っておられるのではないのでしょうか。近ければ真剣に考えると思います。

また、現在子育てしている、ないしは、これから子育てする方々に、もう切迫している状態だということを理解していただかないといけないと思います。これからの世代にどうしていくかを考えていただきたい。

それと、合併問題を考える上で、コミュニティスクールは避けて通れないだろうと思います。少子高齢化で合併していくとなると、部活の問題も含めて中学校の存続をどうするか、重要視していただかないといけないと思います。そうすると、やはり中学校は1校ということになるのではないかと思います。小学校は2校でもいいということですが、どこにするかという問題になります。

それから、福光東部小学校のお母さん方が121名と、たくさん説明会に来てくださいました。その時に、通学のことを気にしておられました。小学校中学年までは早く学校が終わるので、立ち寄れる施設などの対応も考え、丁寧に説明されたほうがよいと思います。また、城端線を意識した学校づくりも、将来的に考えなければならないと思います。

ただ、どれだけ議論をしても、統合時期を決めないと、計画性がなく、意味がありません。統合ありきではなく、統合時期の問題ということだと思います。

（教育長）

これまでは、「学校数」→「使用する校舎」→「統合時期」という順に決定していくことになっていたと思いますが、今のご意見は、「統合時期」→「学校数」→「使用する校舎」という順で決定すべきだということだと思います。

「統合時期」→「学校数」→「使用する校舎」の順で検討を進めるべきかどうかを、今回の検討委員会で決めていただくというのはいかがでしょうか。

（副委員長）

福光地域の学校統合に関しては議会も分かっている話ですから、まず統合時期を決めないと、なかなか前に進みません。

(教育長)

議論いただき、統合時期を先に決めるほうがよいという結論になりましたら、次回の検討委員会までに、教育委員会から統合時期の案を出します。

(委員長)

保護者や子どもが自分事として真剣に考えるようになるためには、どのような形で統合されるのかという点も大事ですが、やはり、統合時期がある程度が決まっていることも重要です。例えば、小学校3年生の児童であれば、自分が小学校に在籍しているうちに統合されるのか、それとも中学校に上がるときに統合されるのかによって、かなり考え方が変わると思います。

また、学校数については、パターン1を推す意見が多い印象を受けました。学校数が決まってくると、スクールバスなどの通学への配慮、学童保育などへの配慮について話をする事になると思います。ただ、次回の検討委員会でも同じような意見の繰り返しとなり、結論が先延ばしになってしまうこともあるので、今後の進め方を事務局で検討してください。

(委員O)

パターン1が多かったので、パターン1の場合の統合時期や通学手段の具体的なシミュレーションを示していただきたいです。そうでないと、またパターン1、パターン2、パターン3のどれにするのかという話になり、振り出しに戻ってしまいます。

城端地域の話もありますが、今回は福光地域としての話なので、まずは福光地域の方針を決めないと、前に進まないと思います。

(委員F)

パターン1になってしまいそうな流れですが、いきなり3案から1案に絞るのはどうかと思うので、せめて2案に絞って考えてはどうでしょうか。この検討委員会のメンバーのうち、校区の広い団体が意見を出せずに困っています。

また、22人の委員のなかで、パターン1を推す意見が多かったと言われましたが、児童生徒を抱えていない団体の意見も一つにカウントしていいのか、少し疑問が残っています。

(委員長)

今のような懸念もありますが、ある程度、統合時期は決めていかないといけないと思います。学校数が決まれば、次はどの校舎を使うかという話になると思います。

ただ、今の段階で決めてしまうのは確かに乱暴かもしれないので、本日、ここで出た意見や他団体の意見を聴かれたと思うので、それをもう一度自団体に持ち帰って共有いただき、再度意見を持ち寄ることもありうると思いますが、みなさんいかがでしょうか。

(委員B)

パターン1はいいのですが、小学校と中学校も同時に統合するという話ではないですよね。まず中学校を先に統合し、その後に小学校でいいのではないのでしょうか。将来的には小学校1校、中学校1校にはなるとは思いますが、3年後にいきなり、小学校と中学校を同時に統合するのはどうかと思います。

(教育長)

同時に統合することは考えていません。

(副委員長)

中学校の統合を先に考える必要があります、その後に小学校の統合が付いてきます。現実問題として、中学校が部活動もできていない、学校の体をなしていない、コミュニティスクールもなしていない状態です。

中学校のほうが課題が多く、とにかく整理する必要があります。

(委員長)

おおよそ、みなさんの意見は出たように思いますが、次回の検討委員会を踏まえ、教育委員会としてこの後どのようにして進めていくのかについて、いかがでしょうか。

(教育長)

統合パターンをこのまま3案にするのか、2案までに絞れるのかについて、確認いただきたいです。

(委員長)

2案というのは、パターン1とパターン2ということでしょうか。

(事務局)

検討委員会では、パターン1とパターン2の意見が多かったということを持ち帰り、次回の検討委員会までに団体の意見をまとめていただければと思います。それに当たり、事務局からの説明が必要であれば、お声がけいただければ説明に伺います。

また、先ほどから統合時期の問題が出ていますが、先に統合時期を決めるという方針で進めるかについて、今日お話しいただければと思います。

(副委員長)

教育委員会には、中学校の統合を一番先に考えるということを考えていただきたい。中学校の統合が喫緊の課題です。教育委員会には、そのことをもっと訴えてほしいです。

(教育長)

中学校を1つにするという案で進めるとなると、現在提案している3パターンのうち、パターン1かパターン2で検討を進めるということだと思います。今日の検討委員会で、3案のうち、パターン1とパターン2の2案に絞るという方向性を確認できれば、次回の検討委員会までに、教育委員会で小学校と中学校の統合時期を提案します。この進め方でいかがでしょうか。

(委員から「よろしいです」との発言あり)

(委員長)

そのような結論として、今日の会議をまとめた資料を作り、配布してください。中学校は、部活動のことや指導教科の問題もあるので早めにとということですね。

(教育長)

義務教育学校の設置ではなく、中学校を1校にするという方向性を確認できた、つまり、パターン1かパターン2の2案に絞れたということですね。

今日出された問題を整理し、次回の検討委員会で、教育委員会から統合時期を提案します。

(委員長)

また、懸念のあった通学や放課後保育などの配慮について、どのようにするか示してください。

(委員M)

統合検討委員会という名称で資料を見ていると、小学校と中学校を同じ時期に統合するというイメージになってしまいます。中学校を先に統合するということが分かる表現をどこかに入れてもらうと、浸透しやすいと思います。

(副委員長)

中学校の統合が喫緊の課題であることを認識し、考えていただきたいと思います。

(委員長)

それでは、スケジュールを含めた形で、今回出された意見を踏まえて資料を作ってください。それをもとに、できれば、委員のみなさんには各団体で意見を聴いていただいた上で、次回の検討委員会を開催したいと思います。

(教育長)

統合パターンはパターン1とパターン2のどちらかにし、統合時期を先に示す方向性が出たということで、了解しました。

(副委員長)

統合時期もいくつかのパターンがあることも考え、示していただきたい。

(教育長)

承知しました。

(委員H)

今日の会議の内容を持ち帰り、パターン1かパターン2のどちらにするかという意見を聞いてくればいいでしょうか。

個人的には、5年、10年先に、再び、統合や再編の話をしなくてはならない気がします。この段階では、今の子どもにとってのベストの答えを出すのか、先のことを見据えた答えを出すのか、どちらでしょうか。両方を考慮して答えを出すとなると難しいです。

(教育長)

ゴールデンウイークまでに、パターン1と2の違いや時期の案などを出しますので、それを材料に話し合ってください。

20年後には、南砺市全体での統合を検討すると思いますが、今の子どもにとっての良い環境を考える必要があります。今と20年後の両方を見据えて答えを出すのは難しいですが、どうかよろしくお願いしたい。

なお、パターン2で再編した後に単級になったとしても、再度統合するという話はありません。20年間は単級のままということになると思います。

(委員C)

子どもが特認校制度を使って他地域の学校に通学していました。去年の夏に、教育委員会が部活動のリーフレットを出され、「送迎に関しては保護者で頑張ってください」と書いてあ

ったのが印象的でした。リーフレットは、市のPTAから修正を依頼し、直していただきました。

ただ、やはり、送迎に関して梯子を外されるのではという思いがあります。その時に、教育長には、「なんバスを使ってください。今はこの程度しかできない」と言われました。結局、バスの時間が合わずに、自転車で帰ってきたこともあります。送迎は親にとって大変な負担です。

部活動に関しては、家族の理解やパワーがないとできず、それが無い子どもは諦めざるをえません。先日のアンケートでも、保護者の64%が送迎を負担と回答していました。先ほどPTAとしてパターン2を推すと言いましたが、送迎をしっかり考えていただければ、パターン1も考えられると思います。

(教育長)

スクールバスについては、きちんと対応できるよう準備していきます。

(委員長)

それでは、今のご意見を踏まえた形で、事務局に資料を作っていただきます。それをもとに、再度各団体が意見を聴いていただければと思います。今日解決するというものではないですから、教育委員会の方針を含めたもので、資料を作成いただくことということで、お願いします。

(委員F)

今回の統合によって南砺市が「魅力的な教育のまち」になってくれればよいですが、そうでなければ、どんどん砺波に人が出ていくのではと危惧する声もあります。その点も考慮していただきたいです。

(教育長)

精一杯努めます。

(3) 今後の進め方

(事務局)

今回の検討委員会で、統合案はパターン1かパターン2に絞った上で、改めて各団体に持ち帰っていただくということで、まとまったかと思います。パターン1とパターン2の違いについての資料は、4月のできるだけ早い時期にお送りしますので、それを踏まえてご検討ください。

統合時期は次回の委員会で提案いたします。もし、各団体・地域で意見交換会を設けられるのであれば、お声をかけていただければ説明に伺います。

5 次回委員会の日程

(事務局)

次回の検討委員会は6月を予定しております。日程については、改めてご連絡します。

6 副委員長挨拶

(副委員長)

色々なご意見を聞かせていただきました。つまるところ、統合時期と統合パターンの問題だということです。小学校の統合は、中学校の統合に付いてくると認識していただきたいと思います。令和8年3月はあっという間にやってきますので、よろしくお願いします。

地域づくり協議会でも話してきましたが、結論が出ずにこの検討委員会に持ってきたと聞いています。今度は先送りしないようにしっかりと進めていきましょう。ありがとうございました。